

令和 5 年度 宇都宮市立田原小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心や健やかな体をもち、自ら考え、取り組み、判断し、新しい時代を創造的に生きる児童を育成する。

- （１） かしこく ― よく考え がんばりぬく子ども
- （２） なかよく ― すなおで 思いやりのある子ども
- （３） 元気よく ― じょうぶで 明るい子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

全教職員の高い資質能力と協働性、家庭・地域との信頼関係を基盤とした、充実した学校経営を実践するための「豊かなふれあいと活力に満ち、笑顔あふれる、魅力ある学校」を目指す。

【目指す学校の具体像】 豊かなふれあいと活力に満ち、笑顔あふれる、魅力ある学校

【目指す教職員像】 自信と誇りをもち、自己の資質能力と協働性を高め続ける教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（１）居がいのある学校づくり

児童・教職員・保護者・地域・ボランティアなど、学校にかかわる誰もが自己存在感、自己有用感を実感できる学校づくりに努める。

（２）創意ある教育課程の編成と地域とともにある学校づくり

児童・学校・地域の実態を踏まえ、知・徳・体の調和のとれた創意ある教育課程を編成し、教育目標の実現に努める。

また、伝統ある校風を基盤に、地域学校園や魅力ある学校づくり地域協議会と連携を図りながら、地域の豊かな教育力を生かした教育活動を推進するとともに、地域の声を学校評価に生かし、学校経営の改善に努める。

（３）生きる力と社会性を育む教育実践

確かな学力と豊かな心、そして健やかな体をバランスよく育成するとともに、個人的資質及び公民的資質の伸長を図る。学校での学びを児童の将来につなぐことを意識し、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動することのできる力」を、カリキュラム・マネジメントを通して全教育活動で育成するように努める。

（４）自己研鑽と組織的な学校運営の推進

教職員の心身の健康の保持増進を図るとともに、教育の質の向上と児童の健全な成長を目指すため、協働性と自律性のある学校組織力を高めつつ、勤務時間を意識した望ましい働き方を基盤とした学校運営に努める。

[田原地域学校園教育ビジョン]

自立を目指しながら積極的に地域社会と関わる田原っ子の育成

4 教育課程編成の方針

（１）地域の豊かな自然や文化、人材等の教育資源を最大限に活用し、郷土への誇りや愛着心を育むとともに、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい児童の育成を目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開できる編成に努める。

（２）カリキュラムマネジメントを通して、「自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」、「自らを律しつつ他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心」、「たくましく生きるための健康・体力」等、児童の「生きる力」の育成に重点を置き、学校生活に変化と潤いをもたせるような編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（１）学校運営 ～ 「田原」大好き！ふるさとへの感謝と誇り

たわらプロジェクト「地域とともにある学校づくり」

○地域の自然や文化を教材とした系統的・体系的な学びを通して、ねらいを明確にした特色ある体験活動及び宇都宮学の充実を図り、郷土愛の心を育てるとともに、学校・家庭・地域の三者による組織の活性化と相互協力による教育実践を推進する。

- ・積極的な情報発信や学校公開により、教育活動の理解促進に努める。
- ・地域学校園各部会の連動・連携した教育実践に取り組み、学校力の向上を図る。

（２）学習指導 ～ わかった！できた！もっとやりたい！わくわくする学びのサイクル

学びのプロジェクト「児童自身が『学びの主体』になる授業づくり

- ・児童の学習状況を的確に分析・把握することにより、個々の学習課題及び学年・学校課題を設定し、「田原っ子の学び」の実践、教師の専門性を生かした教科担任制、少人数指導や一人一台端末等デジタル機器を効果的に活用した授業及び次の授業につながる家庭学習の充実を通して、基礎・基本の確実な習得と活用、及び主体的に学ぶ態度の育成を図る。
 - ・読解力や思考力・表現力の育成を目指し、問題解決的な学習や協働的な学習活動、言語活動等、カリキュラム・マネジメントを通し教科横断的な学習活動の充実を図る。
- 「宮・未来キャリア・パスポート」を有効に活用することで、児童が自己の変容や成長を実感し、新たな夢や目標につなげたり将来の生き方を考えたりすることができるようにし、主体的に学びに向かう力や自己管理能力の育成を図る。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究体制を整備し、教職員の授業力・コーディネート力の向上を目指し、PDCAサイクルによる積極的な授業改善を図る。

（３）児童指導 ～ 自分大好き、友達大好き、思いやりあふれる学校生活

心のプロジェクト「心の教育の推進」「一人一人が輝く学級づくり」

- ・継続的な自己評価や個人内評価により、自ら規律ある生活を実践する態度を育成する。
- ・学校生活における道德教育及びその要となる「道德科」のつながりを工夫する取組を進め、道德的实践力を向上させるとともに自ら道德性を追求する力を育成する。
- ・集団的な問題解決活動や、児童相互の認め合い、高め合いが実現できる場の設定、他者と関わる多様な交流活動や体験活動の実践を通して、一人一人のよさが生きる自治的な集団・学級づくりの充実を図るとともに、自信や有用感を高め、自己実現力を育成する。

（４）健康（体力・保健・食育・安全） ～ 自分自身を見つめて、よりたくましい自分へ

健やかプロジェクト「体力の向上・安全教育」「保健教育・食育の推進」

- ・体育の授業における運動量の確保、休み時間における外遊びの推奨、目標設定とスモールステップによる運動技能の習得と意欲の向上等、体育的活動の充実により体力の向上を図り、健康な生活を実現する力を育む。
- ・児童の実態や傾向の分析・把握をもとに、健康・体力・食に関する指導を統合した健康指導の充実を図り、９年間を通して望ましい生活習慣を身に付けさせる。
- ・学習と生活を関連付けた体験的活動の充実により、学習内容を日常生活に活かすことができる可能性に気付かせ、「自らより健康的で安全な生活を創造する力」「自らの命を守るための危険予測・回避能力」を育成する。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的割合 95%以上	① 他者と協力して学習できるよう, 学習内容や学習形態を工夫する。 ② 必要な情報を集めて考えることができるよう, 図書資料やICTなどを取り入れた授業を行う。 ③ 児童が主体的に学習に取り組むことができるよう, 児童にとって魅力的な題材を扱ったり, 相手意識や問題意識をもって学習できるよう授業展開を工夫したりする。	B	【達成状況】 児童の肯定的割合は 90%で, 指標を 5%下回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・他者と協力して学習できるよう, 学習内容や学習形態を工夫し, 学びの深まりを実感できるようにする。 ・児童がいつでも必要な情報を手に入れることができるように, 一人一台端末を活用するとともに, 図書資料等の充実に努める。 ・児童が主体的に学習に取り組むことができるよう, 魅力的な題材・教材を扱ったり, 相手意識や問題意識を大切にしたい授業展開を行ったりする。
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「児童は, 思いやりの心をもっている。」 ⇒児童の肯定的割合 95%以上	① 道徳科の授業や豊かな体験活動の充実を図る。 ② 異学年との活動や, 幼稚園, 保育所, 子ども園, 高齢者, 地域ボランティア等との交流の充実を図り, 学年学級・学校を越えた人とのかかわりを深める。 ③ 互いに認め合い, 思いやりに満ちた学級づくりに努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的割合は 93.1%で, 指標を 1.9 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・今後も道徳科の授業や様々な体験活動の中で, 学校や学級全体の人を思いやって生活しようとする態度を育てていく。 ・各教科の学習において, 互いに助け合う協働的な活動を取り入れたり, 失敗に対する優しい言葉掛けなどを具体的に指導したりして, 他の児童への寛容性を養っていく。 ・帰りの会で, 互いのよさを称賛し合う時間を設定して, 互いに認め合い, 思いやりに満ちた学級づくりに努めていく。
	A3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的割合 90%以上	① 各種学校行事や校外学習等の教育活動において, 目標の達成や課題解決的な学習過程を重視した指導に努める。 ② 係活動や当番活動, 児童会活動などにおいて, 最後まで責任や役割を果たすことのよさに気付かせるようにする。 ③ 学校農園活動や町探検等の校外学習などにより, 働くことの大切さや喜びを実感させる教育活動等に取り組む, キャリア教育の充実を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的割合は 89.4%で, 指標を 0.6 ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・各種行事や教育活動において, 目標の達成や課題解決的な学習過程を重視することで, 達成感をより強くもたせるよう努める。 ・系統性のあるキャリア教育の充実に努める。
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は, 健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート「児童は, 健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的割合 95%以上	① 登下校指導の徹底や安全教育の実践等を通して, 健康や安全に対する自己管理能力の育成を図る。 ② 体育的行事における事前練習の充実やたわらの時間の外遊び, 検定における目標設定等を通して, 体育的活動の充実を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的割合は 90.0%で, 指標を 5.0 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・学校内での歩行に関して, 環境整備をし, 視覚的支援をしていく。 ・感染症の予防で手洗いの励行をしていく。

<p>1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」⇒児童の肯定的割合 85%以上</p>	<p>① 自分の特性の理解やよりよい人間関係づくりを通して、主体的に役割を果たしたり、人のために行動しようとしたりする態度を育むために、各教科や特別活動、道徳等との関連を図った学習を展開する。</p> <p>② 係活動や当番活動、児童会活動などにおいて、児童一人一人が役割をこなし、互いのよさを認め合う場を設けることで、自己有用感を高める。</p> <p>③ キャリア・パスポートを活用して、各種行事における自分の成長を記録し、発表し合うことを通して、自他の成長を認め合えるようにする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 90.0%で、指標を5ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・特別活動全般において、児童の自主性を重んじ、話し合いを通じて役割を明確にしながら、児童一人一人が活躍できる場を設定していく。 ・外部講師を生かしたキャリア教育の充実に努めるとともに、各教科や特別活動、道徳教育相互の関連を図りながら自らのよさや成長を意識できるような学習活動を展開する。
<p>2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」⇒児童の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 教員が英語を使うとともに、ALTと連携を図りながら、英語のやり取りを中心とした授業を展開する。</p> <p>② ALTとの交流を計画的に実施し、ALTと自由に会話を楽しむことを通して、英語を使ってのコミュニケーションへの関心を高める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 80%で、指標と同率である。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続していく。
	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、宇都宮の良さを知っている。」⇒児童の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 生活科や社会科、道徳科、総合的な学習の時間において、身近な地域や宇都宮市を教材にした学習を展開する。</p> <p>② 市役所職員等ゲストティーチャーを活用した授業や、児童による他学年への情報発信の取組により、宇都宮の良さを実感できるようにする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 86.3%で指標を6.3%上回り、昨年度から3.8%上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続していく。
<p>2-(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」⇒児童の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 調べ学習の内容等に応じてICTや図書資料を活用できるよう、学習環境を整える。</p> <p>② デジタル機器や図書資料を学習に使うことができるよう、単元展開や授業展開を工夫する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 90%で、指標と同率である。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続していく。
<p>2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童生徒は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」⇒児童の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 緑の日や親子奉仕作業、除草作業など、校内の自然や環境を維持することの大切さを実感させる教育活動に取り組み、環境保護等への意識付けを図る。</p> <p>② 地域の協力を得て「探鳥会」を実施し、山田川沿いの自然を味わうことを通して、地域の自然の素晴らしさやそれを守ることの大切さを意識させる教育活動に取り組む。</p> <p>③ 特別活動や児童会活動を通して、節電、節水、食の大切さ等を意識させるよう努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 87.5%で、指標を2.5%下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・全教育活動を通してSDGsを意識した取組を行う。また、図書室や家庭科室、水道など児童の目に触れる場所への掲示等による啓発に努める。

<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 一人一人の教育的ニーズの把握に努め、個別の支援計画を生かした適切な教育支援を行うように努める（学級内、交流及び共同学習、かがやきルームの活用）。</p> <p>② 特別支援学級においては、体験的学びを重視した実践に努める。</p> <p>③ 必要に応じてケース会議を開催し、組織的な支援体制を確立して対応するよう努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的割合は 100%であり、指標を 10 ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も、児童指導連絡会や校内支援委員会といった機会を活用し、児童一人一人の特性を理解できるように努めていく。 ・年 4 回の「学校生活アンケート」や教育相談、日頃の生活の細やかな見取りを通して、児童一人一人の特性や困り感について理解し、寄り添いながら指導をしていく。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」 ⇒児童の肯定的割合 95%以上</p>	<p>① 年 4 回「いじめアンケート」を実施し、結果をもとに担任が教育相談を行い、解決を図る。解決が不十分な場合は、いじめ対策委員会による解決を図る。</p> <p>② 年 2 回の「いじめ根絶強化月間」に合わせ、標語・学級宣言文・個人の意見文を作成・掲示し、個々の児童の意識を高める。</p> <p>③ 「いじめ〇集会」を HP 等で公開するなど、学校及び家庭・地域全体の意識を高める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合が 98.1%で、指標を 8.1 ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、教職員が連携して、いじめの早期発見、解決に努めていく。 ・児童会主催による「いじめゼロなかよし集会」をオープンスクールで公開したり、HP 上で動画を限定公開したりする等、いじめに対する学校での取組を具体的に発信していく。 ・実情に応じてケース会議を開催し、組織的な支援体制のもとに、問題の早期解決を図っていく。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」 ⇒児童の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 学習指導や特別活動をとおして、自己肯定感を高める取組を意識的に行うとともに、児童の良さを積極的に評価するなどして、不登校を未然に防止する教育環境を整える。</p> <p>② 児童相互の認め合い、高め合いが実現できる場の設定、他者に関わる多様な交流活動や体験活動の実践を通して、一人一人のよさが生きる集団・学級づくりの充実を図るとともに、自信や自己有用感を育むよう努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は、95.0%で、指標を 5 ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・年 4 回の「学校生活アンケート」や教育相談での話をもとに、児童の実態を把握し、問題の早期発見・解決を図るようにしていく。 ・欠席状況共有シートを活用し、不登校傾向にある児童の指導について共通認識を図り、学校全体で支援にあたるようにする。 ・学級活動や帰りの会などで、お互いのよさを認め合えるような時間を設定し、学級内での一人一人の自己肯定感を高めていくようにする。</p>
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 学級担任をはじめ、多くの教職員が児童一人一人に声を掛けることで、より良い人間関係づくりに努めるとともに、児童が話しやすい環境づくりに努める。</p> <p>② 教育相談の機会を生かして、児童の悩みや問題の把握に努め、早期解決に努める。</p> <p>③ 学級活動や児童会活動等を工夫し、児童が生き生きと主体的に活動できるよう努める。 ・係活動など学級活動の充実 ・委員会活動など児童会活動の充実 ・縦割り班活動の充実</p>	<p>【達成状況】 ・保護者の肯定的割合は 88.6%で指標を 1.4 ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・係活動や委員会活動を活発化させ一人一人に役割をもたせたり、教育相談を通して良好な人間関係づくりを行ったりするなど、居がいのある学級経営を充実させる。 ・縦割り班や集会活動等において、児童が主体的に活動する様子を積極的に発信する。</p>
<p>3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>			

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や児童にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】全体アンケート 「教職員は、分かる授業や児 童生徒にきめ細かな指導を行 い、学力向上を図っている。」 ⇒児童の肯定的割合 95%以上	① 「基礎学習の時間」において、漢 字・計算・音読・視写等を発達段階に 応じて取り入れ、基礎的・基本的な 内容の確実な定着が図れるよう努 める。 ② 一人一授業研究を行い、「わかる・ できる・もっとやりたい」授業の工 夫に努める。 ③ 「田原っ子の学び」を継続して、 主体的に学習する態度を育てる。	B	【達成状況】 児童の肯定的割合は 98.8%で、指標 を 3.8%上回り、昨年度から、0.4%上回 った。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力し て業務に取り組んでい る。 【数値指標】全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチ ームとなり、協力して業務に 取り組んでいる」 ⇒教職員肯定的割合 90%以上	① 全職員が学校経営に参画意識を もって、協力して教育に当たるよう に努める。 ② 学校行事等において役割を明確 に分担するなどして、同僚性を発揮 しながら取り組むべき業務を設定 する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的割合は 100%であっ た。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・同僚性やチームというキーワードを、 常に意識しながら業務に取り組む。
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】全体アンケート 「勤務時間を意識して、業務 の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員肯定的割合 90%以上	① 児童と向き合う時間を確保する のための各種活動・日課の工夫・改 善を図る。 ② 学校リフレッシュデーを設定し 運用を図る。 ③ ミラタイムによる出退勤時刻の把 握を通したマネジメントの実践に 努める。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的割合は 94.4%で、指標 を 4.4 ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・ワークライフバランスの実現を目指 したり、教職員の意見を生かし各種活動 や日課の工夫・改善、業務の簡略化を図 ったりしながら、児童と向き合う時間を 確保する。
5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、『小中一貫教育・地 域学校園』の取組を行ってい る」 ⇒5・6 年児童の肯定的割合 95%以上	① 田原中の生徒とともに、あいさつ 運動を実施する。 ② 3 校の教職員が協力して、小中 学校において一貫した学習指導や、保 健指導、食育等の取組を実施する。 ③ 運動会や陸上競技大会の練習な ど、学校行事等において、中学生の ボランティアを募り、児童と接する 機会を作ったり、オンラインによる 交流に取り組んだりする。	B	【達成状況】 ・5・6 年生児童の肯定的割合は 94.3% で、指標を 0.7 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・田原西小や田原中との活動において、 児童が地域の繋がりがりやよさを意識して 取り組めるよう各学校と連携するとと もに、各取組についてのより積極的な発 信を図る。
5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進 5- (3) 地 域 と 連 携・協働し た学校づく りの推進	A18 学校は、家庭・地域・ 企業等と連携・協力して、 教育活動や学校運営の充 実を図っている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業 等と連携・協力して、教育活 動や学校運営の充実を図って いる。」 ⇒児童・保護者・地域の 肯定的割合 90%以上	① 「魅力ある学校づくり地域協議 会」と連携し、学校・保護者・地域住 民が一体となって、教育活動の充実 と活性化を図る。 ② 授業ボランティア（地域の外部講 師・街の先生）と連携した授業を計 画的に実施し、その成果について児 童と確認するとともに、広く情報発 信する。 ③ 地域人材を活用した「ふるさとの 自然や文化に誇りをもち、未来を創 る学び」を設定し、系統的なねらい を明確にしながら、豊かな感性と郷 土愛を育てる学びの充実を図る。	B	【達成状況】 ・肯定的割合は児童が 96.3%、保護者が 92.2%、地域が 91.7%で、全て指標を上 回っている。 【次年度の方針】 ・各種活動のねらいをより明確に示し て家庭や地域との連携を深めるとと もに、取組や成果を学校からの各種たより やホームページ等で積極的に発信して いく。

6-(1) 安全で快適な 学校施設 整備の推進	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 保護者や学校施設利用者へ災害時避難方法の周知や児童送迎時の自家用車乗り入れ方法の周知など、危機対応に関する情報を提供する。</p> <p>② 全教職員による安全点検を毎月行っており、施設・設備の整備・点検を実施し、修繕・補修を迅速に行い、児童や利用者が安全に活動できる環境づくりに取り組む。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的割合は90.7%で、昨年度より2.6ポイント下がったものの、指標を上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・利用者を対象にした体育館に関しての連絡会議や、オープンスクール後の安全管理に関するアンケート等を検討し、引き続き安全に配慮した環境づくりに取り組んでいく。
6-(2) 学校のデジタル化推進	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている」 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 一人一台端末や実物投影機等の維持管理の徹底を図るとともに、一人一台端末におけるデジタルドリルやデジタル教科書など学習に必要な教材・教具の整備等に努め、授業で効果的に活用できるようにする。</p> <p>② GIGA スクール構想に伴う一人一台端末の効果的な活用法について、職員研修やICT支援員による支援等を通して、教師一人一人の研鑽を深める。</p> <p>③ 校務支援システムやデジタル連絡ツールについて、職員研修等で共通理解を図り、活用を促進する。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的割合は94.4%で、指標を4.4ポイント上回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・次年度も、一人一台端末における、デジタルドリルやデジタル教科書などの整備を行い、授業などで効果的に活用できるようにしていく。 ・教師一人一人の研鑽をより深めるため、職員研修やICT支援員による支援等の機会をより持てるようにする。
6 小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒保護者の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 地域学校園で設定したあいさつ運動の実施方法を工夫するとともに、PTA生活指導部が参加するあいさつ運動を実施する。</p> <p>② 地域協議会と連携したあいさつ標語の募集、優秀作品掲示により、あいさつへの関心・意欲を高める。</p> <p>③ 「時と場」、「相手」に応じて声だけでなく目礼や低頭といった「相手に気持ちがつたわる」あいさつについて具体的に指導するとともに、道徳科においても「礼儀」について自らの生活を思い起こさせる。</p> <p>④ 児童会主体のあいさつ運動や啓発活動を展開し、一人一人のあいさつへの意欲向上を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的割合は、77.2%で、指標を2.8ポイント下回っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内外での地域の方々へのあいさつの仕方について、「時と場」「相手」を示しながら、さらに気持ちが伝わるあいさつについて、具体的に指導していく。 ・「あさがあいさつ運動」に「目礼と低頭」を加えた「あさがおもって」運動を児童会主体で継続するとともに、日頃からあいさつボランティアを募り、自主的なあいさつ運動が展開されるようにする。
	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活している」 ⇒児童の肯定的割合 90%以上</p>	<p>① 学校でのきまりを徹底するために「田原小のやくそく」や「よい子の1日」を提示し、教職員が共通理解の下、繰り返し指導する。</p> <p>② 児童に「よい子の1日」に関する自己評価アンケートを実施し、重点項目を決め、それらを常に意識して学校生活を送れるよう指導する。</p> <p>③ ルールや約束を守る大切さや誠実に正直に行動するすばらしさ等について考えを深められるよう、学級活動や道徳教育、集会活動での講話などを充実させる。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的割合は95.0%であり、指標を5ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に「田原小よい子の1日」に関する自己評価アンケートを実施し、重点項目を決めていく。また、児童自らが日頃の生活を見直し、週ごとに守っていきたい目標を自分達で設定するなどして、よりよい学校生活を送れるよう指導していく。 ・道徳教育を充実させ、ルールや約束を守る大切さや誠実に正直に行動するすばらしさを児童に伝えていく。 ・児童会活動や学級活動といった特別活動の中で、きまりやマナーを基に、児童自身が自らを律し、判断できるよう指導していく。

	<p>B3 児童は、家庭学習の習慣が身に付いている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、宿題や自主学習を進んで行っている。」 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上</p>	<p>① 「家庭学習のすすめ」を通して家庭の理解・協力を得る。</p> <p>② 家庭学習でも一人一台端末を用いることで、家庭学習に楽しく主体的に取り組むことができるようにする。</p> <p>③ 模範的な自主学習の内容を紹介したり、「自主学習のすすめ」を発行したりすることで、自主学習の内容の充実を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・保護者の肯定的割合は 73.1%で、指標を 11.9%下回った。また、昨年度から 8.3%下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続していく。 ・家庭学習の大切さが伝わるよう、児童には学級活動で内容や時間等について確認するとともに、保護者には学級懇談会で家庭学習の意義等について伝える場を設け、啓発していく。</p>
	<p>B4 児童は運動することの楽しさや大切さがわかる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、進んで運動をしている。」 ⇒児童の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① たわらの時間や昼休みは校庭に出るように声掛けを行う。</p> <p>② 運動委員会における〇〇向上プログラムを計画的に実施する。</p> <p>③ 体育の授業において児童ができたという達成感を味わえるような授業の展開を考え、実施する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・児童の肯定的割合は 84.4%で、指標を 4.4 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も今年度の取組を継続していく。 ・校内実技研修会等を活用し、教職員一人一人が授業改善に努めていく。</p>
	<p>B5 児童は、食事のマナーを身に付けている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「食事のマナーを意識して食事をしている。」 ⇒保護者の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① マナー週間を設定し、意識付けを図る。</p> <p>② 担任と栄養士が連携して、児童への声掛けをする。</p> <p>③ 「食育だより」を通して、家庭の理解協力を得る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・保護者の肯定的割合は 70.5%で、指標を 9.5 ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・家庭での箸の持ち方、食事の仕方等について学校から食育だより等を通して啓発していく。</p>
	<p>B6 本を読むことの楽しさや大切さがわかる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、進んで読書をしている。」 ⇒児童の肯定的割合 80%以上</p>	<p>① 朝の読書（朝の活動）を週2回実施する。</p> <p>② ボランティアによるクラスごとの「読み聞かせ会」を、年間を通して計画的に実施する。</p> <p>③ 担任による各教科等での本の紹介や、図書館司書によるブックトーク、読み聞かせ等により、読書への関心を高める。</p> <p>④ 第3土曜日の「家読の日」において、書籍名やコメント等を記入する記録用紙を工夫するなど、家庭での読書活動を推進する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的割合は 76.3%で、指標を 3.7%下回った。また、昨年度から 6.2%下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、読書活動の充実を図る。 ・次年度も、読書活動の楽しさや大切さが児童と保護者に伝わるよう、図書室の取組や児童の様子について図書だより等で積極的に紹介する。また、メールやHPだけでなく、学級で紹介したり家庭に配付したりすることで児童や保護者の目に触れる機会を増やしていく。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

・学校運営に関する質問項目については、指標を上回っているものが多いことから、学校・地域・家庭の三者による組織の活性化と相互教育による教育実践を推進し、現状を維持できるよう努めていく。

・本校で実施している教育活動について、ねらいを明確にして実践していくとともに、保護者や地域住民の理解を深められるよう、今後もより積極的な情報発信に努める。

○地域学校園における目標・目的の共有化に努め、他校との連携をより図りながら小中学校9年間を見通した教育活動を展開できるようにし、学校力の向上を図る。

【学習指導】

○「宮・未来キャリア・パスポート」や各教科等における新聞づくり、家庭学習等における日記などにおいて自己を振り返る機会を設け、児童が自己の変容や成長を実感したり、新たな夢や目標を見付けたりすることができた。

・児童は、授業の中で ICT 機器や図書等を活用して生き生きと学んでいる。一方で、家庭学習の習慣化や進んで読書をしているかという項目において課題が見られた。学校での取組が伝わるよう、さらに情報を発信したり、情報発信の方法を見直したりして、保護者の理解・協力を得られるように働きかけていく。

【児童指導】

○きまりやマナーを守っているという意識について、児童の肯定的割合が 95%と高かった。今年度は、『きまり』を『あたりまえに』をモットーに、挨拶と落ち着いた生活態度を重点目標とし、その具体について児童と話し合いながら週目標の設定やルールづくりを行う試みを実施した。児童自らが考えて設定しているため、守ろうとする意識が高まり、一人一人があいさつや生活態度について深く考えて行動する姿が見られた。今年度末にも、「田原小よい子の1日」の中のきまりやマナーに関する項目について自己評価アンケートを実施し、児童自身の規範意識を把握し、重点項目を決め、指導を継続していきたい。また、集会の講話や生活目標の設定などの他に、来年度も学級目標の一つにきまりやマナーに関するものを入れたり、児童会主導の活動を取り入れたりするなどして児童自身の規範意識を高めていきたい。

○時と場に応じたあいさつについては、児童と地域住民の肯定的割合は9割を超えているが、保護者の肯定的割合が8割に満たない結果となった。12月には、6学年児童がボランティアで校内のあいさつ運動を実施し、他の学年の児童も参加して、登校時のあいさつについては活発になってきた。今後は、「校内ですれちがった時」「通学路で出会ったとき」などの他に、「朝起きたとき」「近所で出会ったとき」といった自分の生活圏に近い場所でのあいさつについて、具体的に指導していく。

・教職員がいじめや不登校を生まないための指導をしているかどうかを問う項目では、本年度も児童の肯定的割合が高く、教職員による指導が学校全体にいきわたっている様子が見受けられる。年4回の学校生活アンケートや年2回の教育相談を継続していきながら、問題の早期発見と解決に努めたい。また、今年度は、いじめを生まないための活動としていじめゼロ集会を計画し、新型コロナウイルス感染症対策の緩和にともない、児童が体育館に集まって対面による実施ができ、実りのある集会にすることができた。今後は、オープンスクールでの公開やHP 上に限定した動画の視聴を検討するなど、具体的な取組を積極的に地域に発信していく。

【健康指導】

・学校全体として、休み時間等の外遊びを奨励し児童も活発に活動しているが、放課後や休日についてはあまり運動していない状況が見られるため、さらに運動することの大切さについて児童・家庭に情報を発信していく。

・児童の食に関する意識向上を目指し、マナー週間で給食に関わる全ての人へ感謝の気持ちをもち、食品ロスの観点からも残さず食べることを呼びかけたり、給食週間に給食に関するクイズなどを放送したりしたことにより、意識の向上が図られたことから、今後も同様の取組を推進していく。

・健康・給食委員会活動で手洗い週間の活動を行い、手洗いの練習やハンカチチェック等、啓発活動を行った。特に感染症の増える冬の時期は、委員会活動等を通して意識付けを図っていく。家庭や学校外でも年間を通して正しい予防行動を行っていけるように、今後も家庭との連携に努めていく。

7 学校関係者評価

【学校運営】

・コロナが5類へ移行し、創立150周年記念など人の交流が多くなってきた中、「豊かな心や健やかな体をもち、自ら考え、取り組み、判断し、新しい時代を創造的に生きる児童を育成する」という教育目標に向け教職員・保護者・地域・企業の4者が共通理解を図り、共通実践に取り組んだことにより、未来を担う子供たちとともに育成することができた。

・教職員が自信を持って学校運営に参画していることがうかがえる。

・地域の方や中学生との交流、季節に応じた行事など、地域の協力による田原小ならではの活動が多く、取組の効果を感じる。

【児童指導】

・生活習慣の向上、生活に欠かせないきまりやマナーの必要性について、「田原のやくそく」や「よい子の1日」などにより教職員、児童がともに共有し、自ら規範意識を高めようと努力していて素晴らしい。

・いじめ、不登校対策について、児童の意識が高く、いじめや不登校を生まない指導に力を入れていることが分かる。

・あいさつについては、学校であいさつ運動を行っている効果もあり児童の肯定的割合は高かったが、保護者はやや低い結果であった。地域から、登校の際には元気にあいさつをしているという声が聞かれる一方、校内や下校時には児童が進んで挨拶をしている姿が少ないとの声もあり、時と場に応じたあいさつができるよう、地域や家庭も協力しながら取り組んでいってほしい。

【健康指導】

- ・たわらの時間や昼休みに外でたくさん体を動かして遊んでいることはとても良いので、外遊びを奨励した体力づくりは良き伝統として繋いでほしい。
- ・食事のマナーについては、家庭でも意識してもらえよう、学校での取組とともに保護者との連携に努めてほしい。

【学習指導】

- ・教職員が使命感、思いやり、指導力、責任感などを常に意識して、創意工夫して授業を行っていることが、指標の結果に現れている。
- ・英語に慣れ親しむこと、郷土の史跡や文化を学ぶこと、ICT 機器の活用は、将来児童が生きていく社会では今以上に必要なことであり、生き抜く基礎になりうるものと感じるので、楽しく学べる環境づくりを推進したい。郷土愛づくりに河内地区ガイドブック活用も一考と思う。
- ・家庭学習については、保護者の肯定的割合がやや低いものの、「家庭学習のすすめ」やがんばり週間等により習慣づけに効果があったとの声もあり、児童に家庭学習の大切さを伝えながらより具体的に指導していったほしい。
- ・学校の朝の読書タイムや家読の取組によって、本を読む機会があるのはとても良い。本を読むことが好きな子が増えているように思うとの声もあるが、保護者の肯定的割合は低いことから、家庭と一緒に考えながら読書活動の推進に努めてほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・校長の学校経営理念のもと、継続的な取組を重ねてきた結果、成果が現れてきていることから、児童の実態や学校を取り巻く環境に合わせ修正しながら次年度も取組を継続していく。
 - ・学校が保護者や地域の方から多くの協力を得て、児童自身が住む地域について学べることは児童にとっても地域にとっても有意義なことであるので、各種教育活動等のねらいを明確にして、今後も取組を継続するとともに充実させていく。
 - ・今後も学校と家庭、地域が目的を共有しながら連携した取組を充実させることで、児童の心身ともに健やかな成長を目指していく。また、児童の健全育成のためには、家庭・地域との連携が必要不可欠なため、学校での取組を理解していただけるよう、工夫して情報公開や発信に努めていく。
- 地域学校園における目標・目的の共有化に努め、他校との連携をより図りながら小中学校9年間を見通した教育活動を展開できるようにし、学校力の向上を図っていく。
- ・課題としてあげられたものについては早急に対応策を検討し、保護者や地域とも連携して速やかに実行していく。